

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和6年 2月29日

事業所名 放課後等デイサービスすまいるプラス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・法の基準を満たしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・法の基準以上の配置数を心掛けている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・室内はバリアフリー化している ・階段には手すりを付けている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		改善した方が良い点などについては、企画書を作ってもらい施設として改善に努めている	職員から上がった企画に対して、施設として出来るだけ実現できるように心がけていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		携帯電話のメールサービスなどを利用し、スピーディな対応を心掛けている	・年1度の評価表に加わり、モニタリング時にもその都度、保護者の方より、事業所に求める意見を記入頂き、可能な限り、実現できるよう努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開し、多くの方が共有できるようにしている。前年度より、HP以外にも、保護者さま宛に評価表の結果を紙ベースでお渡ししている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		弁護士、行政書士、大学の教授等を顧問、特別アドバイザーとして迎入れ専門的な評価を用い施設の向上に努めています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・職員配置を多くし、研修に出れるようにしている。 ・内部でも月に1回外部の講師を招き、学習会を行い、職員の向上に努めている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・保護者様と連携を図り、出来る限り努めております。今後より良い支援ができるよう、計画を立てていけるよう精進致します。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・その都度必要な項目を増やすなどし、変更して確実な情報を把握できるよう努めている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・ミーティングを行い、その都度話し合っ活動のプログラムを組み立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・曜日固定の方でも、いろいろな活動に参加していただけるよう心掛けている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・短時間でできることや、一日だからできることを設定し支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・子どもの成長などを鑑みて個別活動、集団活動を計画的に実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・支援前には必ずミーティングを行い、活動の確認や前回利用時の確認を行い、情報共有に努めている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・職員の退社時間が異なるため、支援開始前のような打ち合わせは行っていないのが現状であるが、気付いた点など、大切なことはメモに残すなどし、次の日のミーティング時に共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・連絡帳や個人記録に記入し、共有している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・計画の見直しについては個々の状況を児童発達管理責任者が判断し実施している。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		・ガイドラインを元に支援を行うように努めている。		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・会議や対応にたいしては、施設としてふさわしい者を選定し参画させるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・学校の先生より行事や下校時刻等の連絡をいただき、情報共有ができることが増えている。	・情報共有については出来る限り行っているが、まだ不十分な点もあるため、改善していきたい。こちらからの発信にも努めたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			・現在医療的ケアが必要なお子様がお見えにならないので、今後必要であれば行っていきたい。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		児童発達支援事業所と連携を密にし、必要であれば情報共有を実施している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		・当施設から卒業生を送り出していないため、当施設から他の福祉サービスに移行する場合、情報共有を行い利用者が移行しやすい環境を作っていきたいと考えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・児童発達支援センターが主催するケース会議などに積極的に参加し専門機関との連携を図っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			・放課後児童クラブとの交流は現在できていないが、公園や公共施設に赴き地域交流を進めている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・子ども部会が開催されたため、出席し、情報共有ができた。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・子どもの発達状況や課題について共通理解ができるように連絡帳や直接やりとりを実施している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		・当施設では、特別アドバイザーとして障がい児童に精通した大学の教授や講師などが在籍し保護者への助言などを実施する体制をとっている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明を実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・経験豊富な職員の配置に心掛け、又療育の専門家を特別アドバイザーとして配置しきめ細かな対応に心掛けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	・【えがおのたね】という保護者、職員交流の場を年2回企画している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情要望があった場合、できるだけ迅速的確に対応出来るように心掛けている。	・苦情などの周知に関しては、個人情報なども含まれる可能性があることから慎重に行い、改善した内容などはその都度発信していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・すまいる通信という形で、施設の情報を発信している。行事予定、活動概要についても定期的に発信するよう心掛けている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		・個人情報の取り扱いに対しては、会議などで話し合い取り扱いに注意している。	
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・活動内容を連絡帳や口頭で説明し情報伝達に心掛けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・地域住民の方にも参加していただけるような、マルシェを開催し、福祉に対する理解を深めたいと考えている。	地域の方にも参加していただけるようなイベントを考えていきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・各マニュアルの作成を実施し、職員および保護者に周知している。	・各マニュアルの作成をし、周知しているが、内容が細かく重要なことが見落とされる可能性があるため分かりやすいよう工夫したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・通報訓練や消火訓練、避難訓練を行っている。 ・実際に想定して、療育中に避難訓練を実施している。 ・AED研修を実施した。	・来年度は、応急処置手当の研修等を検討中である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待の研修に毎年参加し、その際に虐待についてミーティングを行っている。又、毎月虐待のチェックリストを行い、職員の意識向上に努めている。職員のストレスチェックもを行い、配慮している。虐待防止委員会を行い、検討会や研修を実施した。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・個別支援計画書にも記載をし、保護者に説明を行っている。同意書も頂き、身体拘束とはどういったものなのかを説明している。又、身体拘束を行った際には、保護者に報告することを説明し、了承を得ている。	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		・食物アレルギーが多い方の利用が現在ないため、対応はないが、今後必要であれば検討していきたい。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・その都度、ヒヤリハットが起きた時は内容を記入し、次の日のミーティングにて報告を行い、次に繋がるよう、情報共有を徹底している。 ・虐待防止委員会にて、検討を行い、次につながる支援を考えている。	・虐待防止委員会にてヒヤリハットの共有と支援の見直しについて検討をし、よりよい支援に繋げていきたい。	